



田中 弘 議員

中山高校の跡地利用の提案を

問

県教育委員会は平成24年度末で、中山高校の閉校を決めたが、地域経済、活力に与える影響は重大である。

跡地の利用策を市が主体となり、県に提案すべきでないか。

答 中村市長

今具体的に伊予市として何を持ってくるべきかについての検討は行っていない。今後2年という限られた年月の中で、地域の皆さん方の思いも込めて跡地利用について考えていきたい。

答 岡井副市長

中山高等学校が地域社会において果たしてきた役割や卒業生等の心情を考えると、まことに残念でならない。

敷地は県有地と伊予市、民間からの借地であり、建物は愛媛県の所有物である。したがって、県の方針が示されていない現段階では、市として主体的に進めていくことはできないと認識している。



県立中山高等学校

教育施設の安全対策を

問

ぐんちゅう保育所でインコが殺され、残念であった。中山小・中学校は扉もなく無防備である。児童、生徒の安全管理を見直し、市内各施設の安全対策について問う。

答 市民福祉部長

保育所では安全対策として周辺にフェンス等を設置し、門扉以外からは出入りできない。門扉は、インターホンつきので遠隔操作の設備があるぐんちゅう保育所、おおひら保育所の2園を除き、園児の送迎時間が不規則なことから、常時施錠ができない状況である。万が一不審者が侵入した場合には、緊急通報装置による警察署への通報及び安全対策マニュアルに基づく対応等、園児の安全確保に努めている。

答 教育委員会事務局長

中山小学校は給食センターと校舎の間、中山中学校は校門のところの門扉、2点の改善が必要と思っている。

答 春田教育長

学校を物理的に柵や塀で取り囲んで、外部から人が侵入しないようにすることはできない。

しかし、不備と思われる点は、学校の先生方とも協議をしながら改善を進めたい。

有害獣の駆除を

問

朝夕のあいさつにイノシシの被害に関する会話が交わされ、果樹、水稲、野菜等に被害がある。

鳥獣防止対策協議会により対策がされている。猟期中の駆除にも補助金を。

答 産業建設部長

猟期中は駆除許可も必要なく、県が策定するイノシシ適正管理計画において猟友会と地域住民、行政関係、農業団体等の関係機関と連携協力し、捕獲等の各施策を推進しており、猟期中に農家からの駆除要請があった場合は、無償で協力をいただいている。

また、近隣市町もこの計画に基づいて実施しており、猟期中の補助は行っていないため、今後県内各市の動向を見ながら検討させていただきたい。

なお、イノシシ等の有害鳥獣対策について、伊予市鳥獣被害防止計画が本年度見直しの時期となっており、国の補助事業の動向を見ながらソフト、ハード両面から被害防止計画を作成し、地域の取組を支援する総合的な被害対策を推進していきたい。